



- ① スプリンクラーヘッドを製造する丸森工場。生産ラインはほとんどが自動化されているが、最終工程の検定ラベルシールだけはすべて手作業で貼られている。
- ② 一般事務所ほか病院など幅広い用途に対応する埋込みタイプの高感度型スプリンクラーヘッド。近年は設置面が目立たないコンシールドタイプも需要が高い。
- ③ 同社が開発してきたスプリンクラーヘッド。40年に渡る開発の歴史がここに。
- ④ ヘッドに水を供給するアラームバルブはスプリンクラーシステムの心臓というべき装置。
- ⑤ 消火実験棟での消火性能確認実験の様子。天井はスプリンクラーが使用される空間に合わせ1.5m～18mまで上下する。
- ⑥ 日本に4台しかない6軸加工機ほか最新の工作機械が揃っている丸森工場。
- ⑦ 中国の古典から名付けられた「十駕堂」には研究開発センターが置かれる。
- ⑧ 同町内の紫宿工場はバルブ製造に特化。

発信!!  
いわての  
力こぶ

# 実直な

# ものづくり精神を武器に世界へ進出

我が社の  
力こぶ  
はコレ!

トップクオリティーを  
支える技術と開発力

スプリンクラーと関連バルブの専門メーカーとしての総合的な技術に加え、長年に亘る解析データの蓄積を元に様々な研究開発を進めています。当社製品の6割はOEMで社名が出ることは少ないですが、安心を陰から支えていると自負しています。

取締役 岩手事業所長  
菊池 光明



火災から人命と財産を守るスプリンクラーシステム。社会の高度化に伴いその需要は増え続けており、千住スプリンクラー株式会社は日本でのトップシェアを誇る。創業の翌年に開設された岩手工場は製造と研究開発部門を備え、40年に渡り社の発展を支えてきた。世界進出も果たした同社のものづくりのこだわりは何か、菊池所長に伺った。

## 日本初のスプリンクラー開発 今もトップシェアを守り続ける

建築物の大型化や高層化にともない、その重要性が増している消火用スプリンクラーヘッド。高層ビルや大型商業施設、地下街等はもちろん、近年は比較的小規模の福祉施設へも設置が義務づけられるようになった。製造するメーカーは大小あわせ国内に数社あるが、全メーカー出荷数のうち約7割ものマーケットシェアを占める会社が千住スプリンクラー株式会社だ。本社こそ東京だが、製造部門ほか総務、研究開発など主要機能の多くは、一関市東山町にある2つの岩手工場に置かれている。

同社の母体は、昭和38年に国産第一号の消火用スプリンクラーヘッドを開発した千

住金属工業株式会社のスプリンクラー部門。昭和49年に独立し会社を創立、翌50年には当時の東山町に岩手工場（現在の岩手事業所紫宿）が完成し操業を開始した。当初は月産1万～1万5000個程度だったが、大型ホテル等で火災が相次ぎ多数の死者が出たことにより消防法が改正、需要が急激に伸びていった。国内初の超高層霞ヶ関ビルはじめ東京都庁、東京スカイツリーなど日本を代表する建築物のスプリンクラーシステムにも同社の製品が使われている。

「残念ながら日本では事故がおきてから規制ができます。何にも代え難い人命を守るため、我々は『システム』ではなく『安心』を提供していきたい」。取締役で岩手事業所長の菊池光明さんは、思いをそう語る。

## 世界市場への進出を支えるのは 40年間培ってきた高い生産技術

主力工場が置かれる岩手事業所丸森は平成2年に完成。約3万坪の敷地を見渡すと長大な工場棟ほか管理棟、そして全高20mにも及ぶ巨大な消火実験棟が目に入る。この消火実験棟によって研究開発体制を強化し、国内向け製品の開発とともに、日本とは条件の違う海外の建物に対応した製品を開発している。平成8年にはアメリカの試験検査機関・ULによる住宅用スプリンクラーヘッドの認証を取得した。これほどの設備を有するメーカーは、国内では数えるほどしかない。

技術でも同社は独走する。スプリンクラーヘッドは感熱体の構造から「ガラスバルブ方式」と「はんだタイプ（コンプレッションタイプ）方式」に大別されるが、同社が一貫して取り組むのがはんだタイプ。「世界の主流はガラスバルブですが、衝撃に弱く水損事故も起きやすい。関連会社の千住金属

工業ははんだ合金のトップメーカーであり、40年間培ってきた生産技術が当社にはあります」。菊池所長の説明も明快だ。

国産第一号の製品が世に出て50年。ホームスプリンクラーの普及が始まる一方、価格競争も起こるなどメーカーを取り巻く環境は変化している。その中で同社は千住グループとして海外へ進出、アメリカを皮切りに台湾、中国などに販路を広げてきた。進出には各国の検定規格や性能試験への合格が大前提だが、加えて特許等の「知的財産戦略」が重要だと菊池所長。「国内外のコピー品への対応など様々な特許競争に勝つには、意匠や特許登録などの『武装』が必要」と話す。当センターでは弁理士を派遣したり、外国出願支援事業を実施したりして、同社の世界戦略をサポートしてきた。

会社の強みは?という問いに「丁寧、真面目」と菊池所長は答える。世界進出を果たしながらも、同社の根底にあるのは創業以来変わらぬ実直なものづくり精神だった。

会社名 千住スプリンクラー株式会社

岩手事業所 一関市東山町長坂字丸森86-1番地

電話 0191-47-3388

代表者 菊池 光明

創業 昭和49年4月

従業員 138名

業種 消火用スプリンクラーに関するヘッド・バルブその他関連機器の製造・販売

千住スプリンクラー株式会社  
【支援企業紹介】一関市

